

巻頭言

公益社団法人日本技術士会は2004年6月に「技術士ビジョン21」を策定し、21世紀の国の姿は科学技術創造立国、すなわち科学技術で新たな知を創造し、環境の保全と人類の幸福（安心・安全、心の安らぎ、福祉など）を実現することを目指しています。もとより科学技術の振興は持続可能な発展と豊かな社会、国際競争力のある国創りに極めて重要な要素であります。

これまでも、技術士には広い分野と各職域において地道に科学技術創造立国の実現に向けて活動が続けられ、国民から高い評価も受けています。今後とも科学技術と国民とのつなぎ役、さきがけ役、技術の評価、及び技術鑑定など、総合力を発揮して産業界に対して多面的に貢献する必要があります。

一般社団法人九州産業コンサルトント協会は、産業分野の領域において地道に地域中小企業の人づくり、技術支援、課題解決を目的に平成23年に設立され会員諸兄の研鑽と努力により本年を迎えました。これまで安全衛生部門による労働災害予防体制の企画開発、作業環境測定診断・改善業務、講座教室整備・講師の養成、ごみの再資源化診断評価業務、産業廃棄物最終処分場等計画における住民への説明会周知業務、JABEE関連校の特別教育と審査方法の研修等九州地方における安全な働きかた改革、環境・エネルギービジネス、地域創生開発、人づくり等の諸課題に取り組んでおります。

平成最悪の東北大震災、熊本地震、そして、九州の気象災害となった29年7月の九州北部豪雨は、「これまで経験したことないような大雨」といわれ全国ではじめて九州地方に大雨特別警報を気象庁は発令しました。九州北部は、活発化した梅雨前線による記録的豪雨に見舞われ、土砂崩れや河川の氾濫などが相次ぎ、福岡、大分、熊本の3県で31人が死亡、一時は20万人以上に避難指示がでました。道路が寸断されて多くの集落が孤立し、各地に残る爪痕は、自然災害の恐ろしさをみせつけ災害時の地域での支え合いの大切さを教えています。

本協会の安全防災委員会においてもこれからの「安心の礎」を築くために災害リスク予防、地域蜜着型防災対策、人に優しい避難等の仕組みづくりをおこない災害にまけない総合的な地域づくりに向けて技術士部門への「防災・避難部門」の新設を会員一同と防災機関、関係団体との協働によって検討する等、安心・安全な社会づくりに向けてより一層の貢献策を建議して参りたいと思います。会員をはじめとして、産業界、関係機関に向けて内外の動向をとりまとめた情報誌、(ホームページ有)として、ここに「九産コンダイジェスト・ニュース創刊号」を発行することになりました。尚、ご投稿いただいた会員諸兄に対し心からの感謝とお礼を申し上げます。

平成30年 8月 吉日
本協会 専務理事 青山 次則
(NPO・熊本技術士の会、理事長)